



アートと向き合う 豊かな時間

特集 ベネッセハウス

穏やかな瀬戸内海に浮かぶ直島には、現代アートを全身で感じられる場所として世界中から多くの人々が訪れている。その中核を担うベネッセハウスは、美術館とホテルが一体となった特別な施設であり、建築・アート・自然が呼応する、この場所ならではの滞在体験を提供している。

鹿島建物管理概要

管理開始：1992年4月
管理内容：設備管理業務
管 轄：中国支社 岡山営業所

建築概要

施設名称：ベネッセハウス
所在地：香川県香川郡直島町琴弾地
主要用途：美術館・宿泊施設・店舗など
設 計：安藤忠雄建築研究所
（安藤忠雄・岡野一也）
施 工：鹿島建設 広島支店

延床面積：ミュージアム：3,485㎡
パ ー ク：3,000㎡
ビ ー チ：700㎡
オ ー バル：598㎡

アートが息づく島の現在地



自然、建築、アート、そしてコミュニティが共生する場所

瀬戸内海の直島・豊島・犬島を舞台とする「ベネッセアートサイト直島」は、岡山県に本社を置くベネッセコーポレーションと福武財団によるアート活動の総称である。その歩みは1985年にさかのぼる。世界中の子どもたちが集える場をつくりたいという思いのもと、福武書店（現ベネッセ）と直島町が協働し、自然環境を守りながら文化を育むという挑戦が始まった。

活動の象徴となったのが、1992年に開館した安藤忠雄設計の「ベネッセハウス」だ。美術館とホテルを一体化させた「泊まりながらアートを体験する」というアプローチは、世界的にも例を見ない試みであった。以来、直島ではアートと島の風景が共生する独自の文化が育まれていった。

直島のアート群は、恒久的な屋外作品、ミュージアム群、島内の空間そのものを生かすプロジェクトなど、さまざま。海岸や丘陵に点在する作品や建築は、瀬戸内の光や風、潮の満ち引きを取り込み、時間や天気、季節の移ろいと共に違った表情を見せてくれる。そこにあるのは、鑑賞の前提に「自然の時間」を据えるという豊かな体験である。

活動開始からおよそ40年。アートの波は島の南部から町の中心部へと広がり、2025年には集落のなかに「直島新美術館」が開館した。館名に初めて「直島」を冠した、これまでの歩みの結晶ともいえる美術館である。展示や多様なパブリック・プログラムを通じて、直島の住民はもちろん、世界中の人々が繰り返し訪れ、新たな出会いや交流、気づきが芽吹く拠点となるだろう。

直島とアートの歩み

1985年

福武書店の創業社長・福武哲彦氏と直島元町長・三宅親連氏が直島開発の約束を交わす



1989年

直島国際キャンプ場

安藤忠雄の監修を受けた「直島国際キャンプ場」がスタート

1992年

ベネッセハウス ミュージアム オープン **A**

安藤忠雄によって設計された美術館とホテルが一体となった施設



1995年

ベネッセハウス オーバル オープン **B**

ミュージアムからモノレールで移動した丘の上に建つ宿泊専用棟



1998年

家プロジェクト「角屋」 **1**

古い家屋などを改修し、アーティストが空間そのものを作品化するプロジェクト第一弾を公開

2004年

地中美術館 開館 **2**

「自然と人間との関係を考える場所」をコンセプトに開館

Photo: 大沢誠一



2006年

ベネッセハウス パーク オープン **C**

新たな宿泊棟。杉本博司のさまざまな作品を展示



2006年

ベネッセハウス ビーチ オープン **D**

ベネッセハウスのなかで最も海辺に近い場所に建つ宿泊専用棟



2010年

瀬戸内国際芸術祭 開催

香川県瀬戸内国際芸術委員会が主催し、以降3年毎に開催

2013年

ANDO MUSEUM 開館 **3**

本村地区において、築約100年の古民家を活かした安藤忠雄のミュージアム

2022年

草間彌生〈南瓜〉を新作展示 **4**

2021年に台風の影響で破損した「南瓜」を復元制作し、旧作と同じ場所で展示

2025年5月

直島新美術館 開館 **5**

安藤忠雄設計のアート施設。日本を含むアジア地域の現代アートを展示

Photo: GION

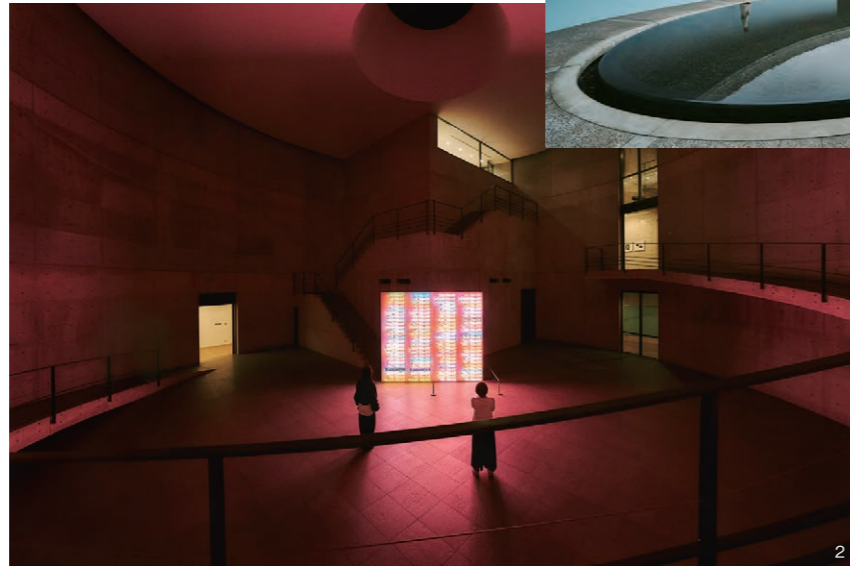


2025年

ベネッセハウスが第1回ミシュランアーキテクチャ&デザインアワードに選出



宿泊そのものを 芸術体験に



“よく生きる”を見つめ直す本物の贅沢

ベネッセアートサイト直島の原点とも言えるベネッセハウスは、建築家・安藤忠雄による4つの宿泊棟で構成されている。美術館のなかに客室がある「ミュージアム」、モノレールで登った高台から大パノラマを望む「オーバル」、海辺に佇む「ビーチ」、そして木造建築の「パーク」。全棟に共通するのは、建築・アート・自然・宿泊が一体となった、日常の喧騒から離れたここにしかない“静域”ということだ。

ベネッセハウスの清宮裕子副総支配人は「今、私たちが大切にしているのは『クワイエット・ラグジュアリー』というホテルとしての在り方です。きらびやかな贅沢ではなく、静謐のなかに宿る本物の贅沢を大切にしています」と語る。

この滞在体験の核には、創設者・福武総一郎氏の理念「考えて、考えて、眠る」が生きている。早朝の澄んだ空気や、夜の深いとぼりのなかで生まれた気づきを客室にもち帰り、心ゆくまで向き合う。その時間こそが、ここでしか味わえない贅沢と言える。

この思索の時間をさらに深めてくれるのが、客室で楽しめる作品鑑賞ツール「Art Dialog in the Room」だ。各客室に展示されたアート作品のQRコードを読み込むと、自身の感想を記録できるだけでなく、過去の宿泊者が残した言葉にも触れることができる。作品を通じた他者との対話によって、鑑賞体験を一層豊かなものへ導いてくれる。

こうしたアートと自然が織りなす唯一無二の滞在価値は世界からも評価され、2年連続の「2ミシュランキーホテル」選出に加え、2025年には日本で唯一「ミシュラン アーキテクチャ&デザインアワード」(世界の優れた建築とデザインのホテル)にもノミネートされた。

清宮副総支配人は「波の音や鳥の声を感じながら、建物とアート、そして自分を重ねながらゆっくりと過ごしていただきたいですね。瀬戸内の自然に包まれると、心も穏やかになります」と微笑む。ベネッセアートサイト直島の原点である「Benesse =よく生きる」という理念は、こうした時間のなかに静かに息づいている。

1. 朝のゆるやかな光と波の気配を感じながらエリア内を散策する
2. 宿泊者はベネッセハウス ミュージアムの一般閉館後も23時まで自由に鑑賞できる。昼間と違う表情を見せる、ブルース・ナウマン「100生きて死ぬ」
3. わずか6室のベネッセハウス オーバルは、お気に入りの景観やアートの客室を指定するリピーターも少なくない
4. ベネッセハウス ミュージアムの2階のカフェでは、軽食と眼下に広がる瀬戸内海の景色を楽しむことができる
5. 宿泊者限定のモノレールが、丘の上のベネッセハウス オーバルとミュージアムをつなぐ
6. ディヴィッド・トレムレットがこの客室のために制作した作品「ワールドローイング・アット・ベネッセハウス#405」を鑑賞できるオーバルツイン



100年
をまもる対談

ベネッセハウス
×
鹿島建物

直島を支える 信頼の連携

鹿島建物は、1992年のベネッセハウス開業以来、直島での設備管理を担当してきた。現在は、直島新美術館や家プロジェクトを含む主要施設を、4名の設備員で支えている。離島特有の環境下で、ベネッセハウスを運営する直島文化村との連携体制について話を聞いた。

清宮様 ホテルは“お客様の命を預かる仕事”です。だからこそ安心・安全がすべての土台になります。そのためには建物の維持管理が欠かせませんが、ホテル側だけでは成り立ちません。鹿島建物さんとはベネッセハウスができてすぐからの付き合いと聞いていて、もう30年以上の関係になりますね。

山中美樹様 私たちはホテル側の施設管理として、簡単な修繕は自分たちで対応します。ただ、私たちでは対応できない設備の不具合は鹿島建物さんにすぐに連絡し、一緒に現場を見て対応してもらっています。

山中 施設管理部さんとは事務所が同じ場所にあるので、何かあればすぐ共有できます。ここは竣工から30年以上が経ち、日々のメンテナンスが肝心です。毎週の部会では不具合状況を共有し、スケジュールを調整しています。

笠井 ここは離島なので、設備が壊れても外部業者がすぐには来られません。ですから、予備品を常に多めにストックし、まずは自分たちで対応できるようにしています。

山中美樹様 客室の場合、チェックアウトから次のお客様が入られるまでの約4時間で不具合を対処しなければなりません。4棟あるので、同時にトラブルが起こることも

ホテルを、島をまもる誇り

ありますが、鹿島建物さんや宿泊係と密に連携して、お客様の滞在に不便がないようにしています。

山中 日常の修繕では対処できない大掛かりな工事は、6月と1月の休館期間にまとめて行っています。「これは半年もつか?」「ここは急いだほうがいい」といった話をしながら、限られた休館期間でできる工事を調整していきます。優先されるのは、安全にかかわること、そして営業中にはできない停電・断水を伴うインフラの工事です。

笠井 今年はパークとビーチで大規模改修を行っていますが、ミュージアムは美術館併設という性質上、容易に工事ができません。だからこそ、予防保全の視点が重要です。「今は問題ないが、将来に向けて改善したい点」をホテル側と相談しながら見つけ、先回りして提案しています。

山中美樹様 私はホテルができる前、国際キャンプ場の時代からアルバイトで施設運営に関わっていますが、その時に鹿島建物の設備管理の方に色々教えていただきました。鹿島建物さんは今でも難しい相談に「無理です」と言わず、必ず一緒に解決策を探してくれる存在です。台風の時などは、数日間滞り込んでしまうこともあり、本当に頼りにしています。

山中 台風の際は停電などのリスクがあるため、営業所からも応援に駆け付け、現場と支社・営業所が協力して直島の施設をまもるようにしています。

笠井 私たちはベネッセハウスに加えて地中美術館や直島新美術館などのアート施設も担当しており、直島の文化を支える一員でいられることに誇りを感じています。実は私自身プライベートで宿泊したことがありますが、「この仕事に関われてよかった」と心から思える素晴らしい宿泊体験でした。

山中美樹様 私は直島生まれ直島育ちで、この場所は町民としての誇りです。島のおじいちゃんおばあちゃんも、観光の方や外国からのお客様と楽しそうに話すようになり、以前より元気になったと感じています。だからこそ、このホテルをいつまでも美しく保ち、訪れたゲストが笑顔で帰っていける場所でありたいと思っています。

清宮様 おかげさまで、世界中から多くのお客様に来ていただき、名誉ある賞をいただけるようになりました。「ベネッセハウスに泊まりたいから直島に行く」と言っていたホテルをつくっていきたくと思っています。そのためには、今日話してきたように、皆さんとの連携は欠かせません。これからも一緒に直島を支えていきましょう。



直島文化村
ベネッセハウス
副総支配人
清宮 裕子 様



直島文化村 ベネッセハウス
施設管理部 部長 兼 宿泊部
ハウスキーピングマネージャー
山中 美樹 様



鹿島建物 中国支社 岡山営業所 所長
笠井 建志



鹿島建物 中国支社 岡山営業所
ベネッセ直島管理事務所 所長
山中 将史



お客様の快適な滞在環境を設備管理の視点で支える

鹿島建物総合管理 中国支社
岡山営業所 ベネッセ直島管理事務所
(左) 管理事務副所長 中村 和也
(右) 管理事務副所長 渡邊 泰元